

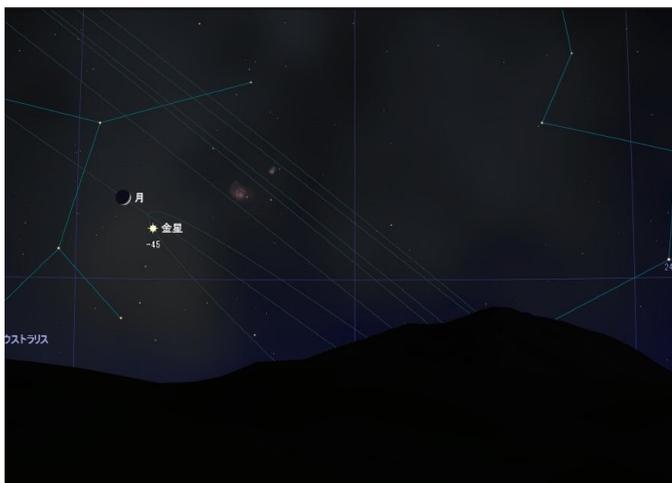
11月8日(月)「三日月と金星の接近」

--- 観察ガイド ---

2021年11月8日(月曜日)の夕方、17時30分(午後5時30分)から18時30分(午後6時30分)頃、もし時間があったら、南西～西の空を見てください。すばらしい「天体ショー」を見られますよ。



まず目につくのは「月」です。三日月のように見えますが、本当は「四日月」です。その右下にとっても明るい星が見えます。それは「金星」です。金星は、太陽系の惑星(わくせい)の一つで、地球よりも内側(太陽寄り)を回っている「内惑星」の一つです。東京では都市の明かり(光害)がひどいので、ふつうの星はあまりよく見えません。しかし、月と金星は明るいので、上の図のように見えます。



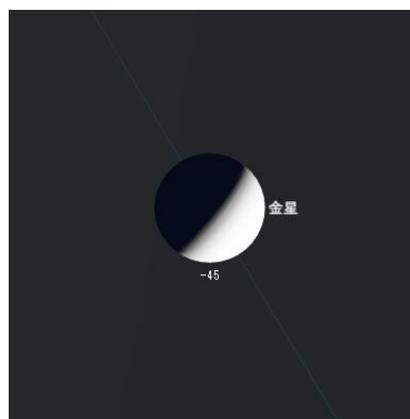
もっと空の暗い土地では、ほかの星もたくさん見えます。上の図は、群馬県の北軽井沢から見たようすで、浅間山の左上に、月と金星が見えます。月も金星も、このあと「右下」に動いて見えるので、浅間山のふもとにしずんでいきます。



見た目にはとても接近していますが、拡大すると、意外とはなれています。月の「見た目の直径」は約0.5度なので、月と金星は約1.5度はなれています。もう少し月が右下だったら、金星が月にかくされる「金星食」が起きていました。ちょっと残念ですね！



三日月前後の月を観察すると、面白いことに気づきます。月の光っていないほうも、少し光って見えるのです。これは「地球照(ちきゅうしょう)」といって、地球に当たった太陽の光が、もう一度月に当たって光って見える現象です。



この日の金星は、-4.5等と、とても明るく見えます。肉眼(目だけ)では「光る点」にしかな見えませんが、双眼鏡や望遠鏡で観察すると、まるで「半月」のように見えます。これは、金星が地球よりも太陽に近いために、位置によって「満ち欠け」をするからです。おもしろいですね！